

1 【出題の意図と対策】

文学的文章（小説）の読解で、ここでは、角田光代の『拳の先』が題材です。出版社に勤める空也が、トレーナーの萬羽から話を聞きながらボクサーの立花に対しての思いを巡らせる様子が描かれています。小説を読むときには、登場人物の立場に立つて、心情やそれを表す態度に注意して読むことが大切です。そのうえで、それぞれの設問について、何が問われているのか、文章の中のどの部分が根拠となっているのかを確認しながら、解答していきます。

【解答】

- ① a きた（え） f くちよう
- ② 例 興味のない本には触れなかったので、ふつう（20字）
- ③ イ
- ④ ウ
- ⑤ 例 日本タイトルまではとれるだろうが、その先の世界へはひとりきりでいくしかない（37字）
- ⑥ ウ

【解説】

- ② ポイント《人物の心情を正しくまとめられるかどうか》
萬羽の話を聞いた空也が自分をどう思ったか、その理由を字数内でまとめます。傍線⑥に続く部分に、「なんにせよ自分はふつうか、もつとふつう」と思ったこと、その理由として「勉強は苦ではなかったが、テスト前まで勉強しないことも多かった」、「本を読むのは好きだったが、自分の興味のないものは触れもしなかった」ことが書かれています。このうち、「読書も好きだったが」にうまくつながる「自分の興味のないものは触れもしなかった」ことを理由としてまとめましょう。
- ③ ポイント《指示語の指示内容を理解できるかどうか》
「そうなんだ」の「そう」は、「その道のプロになる」人を指しています。本人は「やれと言われているからやってるだけ」だが、「ハタから見れば過剰」なほど「至って素直な」努力を重ねる人のことです。したがって、イが適当です。アは「確認して理解しようとする人」は「ふつう」の人です。ウは「他を犠牲にしても」が「努力を努力とも思わない」様子と合っていない。エは「経済的とか知名度っていう意味での成功じゃない」とあるので「経済的にも成功する」が誤りです。
- ④ ポイント《ことばの意味を正しく理解しているかどうか》
ア「一衣帯水」は、一すじの帯のように幅の狭い川や海を指す言葉です。イ「二期一会」は、一生に一度の出会い、エ「一刻千金」は、時間が過ぎ去りやすいことを惜しむことを意味します。
- ⑤ ポイント《文章の内容を正しくまとめられるかどうか》
萬羽の発言を、空也は「実績あるトレーナーをつけたからといって油断するな」という意味だと思っていました。しかし、萬羽の今日の話を聞いて、「そこから先へは」「ひとりきりでいくしかない」という意味ではなかったかと思っ直しています。「そこ」が「日本タイトル」、「先」が「世界」を指すことから、ぼくと組んだら「日本タイトルまではとれる」。でも、その先の世界へはひとりきりでいくしかないのだということを伝えようとしていたのではないかと考えています。
- ⑥ ポイント《文章の表現の特徴について理解できるかどうか》
アは、「おそれを示唆」が合いません。「おかしな」という言い方は、批判ではなく驚きや称賛を意味します。イは、蒼介と似たような話をしたことを思い出しただけなので、「蒼介のことだと気づいた」が誤りです。ウは、萬羽の話す様子に合っています。エは、「既にあきらめている自分の心情は隠して」が、本文から読み取れない内容です。

2

【出題の意図と対策】

説明的文章（論説文）の読解で、題材は、更科功『化石に眠るDNA』です。「絶滅種の復活」について、絶滅種が実際に復活した際の問題点を述べています。さらにダーウィンの観察を例に、絶滅種の復活が可能だとしても生態系の復活は不可能であると述べています。論説文を読むときには、文章の構造を考えながら、筆者がどのような話題に対してどのような意見を述べているのかを正確に読み取ることが大切です。

【解答】

- ① b 損失 f 網
- ② エ
- ③ 例 特定の種にしか興味を持たない人がいるため、人気のある種だけを復活させる（35字）
- ④ ア
- ⑤ X その影響は数百種以上に及ぶ
- ⑥ Y 完全にコントロールすること
- ⑦ エ

【解説】

- ② ポイント《文法（連体詞）の知識があるかどうか》
a「ある」とエ「ある」は、体言を修飾する「連体詞」です。アは「行われる」、イは「存在する」意味の動詞、ウは「頼んで」と補助の関係をつくる補助動詞です。
- ③ ポイント《文章の内容を正しくまとめられるかどうか》
民間から「資金を調達」する問題点について、傍線③に続く部分に「民間の出資者の中には、ある特定の種にしか興味を持たない人が結構いる」とあります。その場合、「一握りの人気のある種だけを復活させ」ることになり「バランスを欠いて」しまうのです。この二つの要素を字数内でまとめましょう。
- ④ ポイント《文章の内容を正しく理解しているかどうか》
傍線④のある段落に、「絶滅種の復活の目的が、生態系の復元である場合、復活種を野生に返すことは必須条件」、「檻に入れたり網で繋いだりしないのだから、復活種が人間に危害を加える可能性」があることが述べられています。「ジャコウウシ」は、この例です。したがってアが正解です。イは「街中で暴れるようになり」が本文にない内容です。ウは「ジャコウウシ」を例に説明していることではありません。エは「動物が生態系にかえることを阻害される危険がある」とは書かれていません。
- ⑤ ポイント《文章の内容を正しく理解しているかどうか》
「生態系を復活させることなどできない」理由について、「つまり」から始まる段落以降で、「生態系の中で1種か2種が変化するれば、その影響は数百種以上に及ぶ」こと、「そんな生態系を完全にコントロールすることなど、私たちにはできない」ことが述べられています。
- ⑥ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
アは、「絶滅危惧種の保護にはそれ以上の資金が必要」が第一段落の内容と反しており不適です。イは、ジャコウウシの導入を中止してはいないので「中止せざるをえなかった」が誤りです。ウは、「新種の」が本文にない内容です。エは、第三段落の「復活種は単なる外来種ではないかという批判がある」「復活種は生態系にとって単なる侵略的外来種である、という批判に応えることは難しい」とあるので合っています。

3 【出題の意図と対策】

平安時代の著名な歌人、紀貫之^{きのつらゆき}についての解説文の読解問題で、筆者は大岡信^{おおおかのぶ}です。平安貴族にとって和歌は恋愛の思いを伝えたり、自らの官位の昇進を歎願^{たんがん}したりする際に必要なものであるが、その短小な詩形ゆえに様々な工夫が必要でした。「見立て」を例に、貫之の和歌と、承均^{そうきん}法師の和歌を比較しながら、貫之の和歌を評価した藤原俊成^{ふじわらのしゅんぜい}の歌論集を引用しつつ和歌における音の効果を説明しています。今回の出題は解説文ですので、筆者の主張を押さえ、設問に答えていきましょう。

【解答】

- ① イ
② X ア
Y 駄洒落^{だしゃらく}にて候
③ イ
④ 例 重なり合って聞こえる（10字）
I 例 ひめやかな音楽性

【解説】

① ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
第一・二段落に着目します。アは、「恋愛に際して……彼らの生活の必要な習慣だった」「官位の昇進を歎願^{たんがん}するにも、歌を通して」とあるので合っています。イは、第二段落にあるように見立ての技法は、「当代一般の歌人」すなわち上流階級にあてはまるのみで、「庶民にも受け入れられ」たとは書かれていません。ウは、第一段落に「六朝詩^{りくちようし}の技巧の古今歌人への影響」が『見立て』や『語戯』の面に集中していた」とあり合っています。エは、やはり第一段落に和歌が三十一音の短小な詩形であることから「ある種の新味をそえ、複雑化するための技巧が必要であった」とあり合っています。

② ポイント《和歌や文章の内容を正しく理解できるかどうか》
説明文の空欄 X は、Aの貫之の和歌の「木の下風はさむからで」を解釈した内容が入ります。「さむから」は「寒し」という形容詞、「で」は打ち消しを表す接続助詞です。ですから、「さむからで」は「寒くはなくて」という意味になります。そして Y は、Aの和歌に対する子規^{しき}の感想が入ります。「子規はこの歌を『駄洒落^{だしゃらく}にて候^う』と切り捨てたとあるので、この部分を書き抜きます。

③ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
アは、筆者は「桜散る花のところ」が、興ざめだと言っているの、「以外の部分」が誤りです。イは、Bの和歌に対して「承均の歌には、艶^{えん}も余情もない」とある一方で、Aの貫之の和歌については「生活の必要物としての和歌に新しい血を注ぎこむことを意味していた」「そういうところに費やされた貫之の苦心とその成功」があると書かれているので合っています。ウは、AとBの内容が反対です。エは、子規と俊成の批評が紹介されているのはAの歌のみで、Bの和歌については書かれていないので誤りです。

④ ポイント《文章の内容を正しくまとめられるかどうか》
I は、藤原俊成が、どのような歌を最高のものとしているかについての内容が入ります。文章の最終部分に、「…聞こえるような歌を最高のものとした」とあり、その前の部分を見ると、「和歌のよしあしの判定を、声に出して詠みあげたときに」「『艶』と『あはれ』……双方が、わかちがたく重なり合って―聞こえるような歌を最高のものとした」とあります。この部分を使って、「重なり合って聞こえる」などとまとめます。
II は、Bの和歌に続く部分に、「貫之の歌には、口ずさめば一層あきらかになるサ行の囁^{ささや}きのひめやかな音楽性がある」とあるのでこの部分を書き抜きましょう。

4 【出題の意図と対策】

近年「読む」能力とともに、「話す・聞く・書く」能力の育成に力が入られています。入試においては、「書く」能力を判定する記述式の問題とともに、スピーチ・発表・話し合いなど、「話す・聞く」能力を判定する会話形式の問題も頻繁に出題されています。話し合い形式の問題では、個々の発言の意味や主張内容を押さえるとともに、問題で用いられている資料を正確に読み取ることが大切です。普段から資料を使った問題などに関心を向けて、資料のポイントをつかむ練習をするように努めましょう。

【解答】

- ① エ
② ウ
③ イ・ウ・エ（完答・順不同）
④ Y 例 エ（Y・Zで完答）
Z 例 （具体的には）公園の周囲を高いフェンスで囲み、遊具を置かず、地面はやわらかく舗装する。フェンスはポールが外に出ることを防ぎ、やわらかい地面はけがを防ぐメリットがある。（76字）

【解説】

① ポイント《漢字の意味を理解できるかどうか》
傍線「特色」の「色」は「ようす」の意味で、同意は「普通とは異なる様子」を意味するエ「異色」です。ア「才色」、ウ「顔色」は、表情や顔かたちの意味、イ「色彩」は「いろいろ」の意味です。

② ポイント《資料を論理的に読み取ることができかどうか》
「政也さんの意見が論理的なものとなるために」という設問文の条件に注意して考えましょう。アは、複合遊具も「増加の一途をたどっている」ため、「健康器具系施設のみ」が誤りです。イは、ジャングルジムの最低値は2013、2016年であるため、合っていません。ウは、【資料I】の内容に合っています。エは、「その空きスペースに」が【資料I】から読み取れない内容です。

③ ポイント《発言の特徴を理解できるかどうか》
アは、杏奈さんは質問に一度しか答えていないため、「両方の資料について質問に答えている」が誤りです。イは、政也さんの二回目の発言に合っています。ウは、未来さんの二回目の発言内容に合っています。エは、広夢さんの一回目、三回目の発言内容に合っています。オは、「問いを投げかけている」が誤りです。

④ ポイント《資料を適切に利用して、論理的な文章が書けるかどうか》
【資料II】の問題点を解決できるような具体策とメリットを考えるとよいでしょう。たとえば、
ア…具体策 遊歩道の整備、健康器具系施設の設置。
メリット 高齢者のウォーキングや運動を促し、健康維持につながる。
イ…具体策 草刈りや木の適度な伐採、土の地面を残す、日除^{ひぐけ}けの設置。
メリット 治安の維持、泥遊びができる、熱中症対策。
ウ…具体策 桜や金木犀^{きんぎし}などを植える。サークルベンチの設置、トイレの清掃、キッチンカーの誘致。
メリット 座る場所が増える、公園がくつろげる場となる。一文目に具体策、二文目にメリットと分けて書くことに注意しましょう。